

尾身大臣の第45回国際原子力機関（IAEA）総会出席及び
要人会談の概要について

平成13年9月25日
内閣府

尾身科学技術政策担当大臣が、9月17日（月）からオーストリア国ウィーンで開催された、第45回国際原子力機関（IAEA）総会において、政府代表演説を行い、また同日、韓国、仏国及び米国の代表並びにIAEA事務局長と個別会談を行ったところ、概要以下のとおり。

1. 出張者

（政府代表）

尾身幸次 科学技術政策担当大臣

阿部信泰 在ウィーン国際機関日本政府代表部特命全権大使

（政府代表代理）

浦嶋将年 内閣府大臣官房審議官

瀬山賢治 文部科学省大臣官房審議官

中村 進 原子力安全・保安院首席統括安全審査官

長内 敬 外務省総合外交政策局軍備管理・科学担当参事官

（代表随員）

青山 伸 内閣府政策統括官付参事官（原子力担当）

中西 章 文部科学省研究開発局原子力課長

加藤元彦 外務省総合外交政策局科学原子力課長

鈴木 隆 資源エネルギー庁原子力政策課国際担当企画官 他

2. 結果概要

(1)政府代表演説（骨子）

9月11日の米国におけるテロ事件に言及し、テロリズムと戦うため共に立ち向かうことを主張

我が国の原子力平和利用政策、非核三原則と核不拡散と平和利用におけるIAEAの使命への期待

エネルギーの安定供給と地球環境問題に対応する我が国の原子力の研究開発利用状況と見通しの紹介及び核融合研究開発、特にITERについて米国の復帰の希望の表明

核不拡散体制の強化、追加議定書の締結促進、統合保障措置の早期具体化、KEDOの軽水炉プロジェクトの円滑、迅速な推進

原子力安全の確保、谷口次長の就任歓迎、邦人職員の増員要求、放射性廃棄物についての特別抛出

優先順位設定等による IAEA 業務の経費節減の要請からなる演説を米国に続き 2 番目に発表。

(2) 要人会談

① 韓国キム科学技術部長官との会談

(07 時 30 分～08 時 30 分：ホテル・ザッハー)

原子力を含む科学技術全体の協力を進めることで意見が一致。

KEDO について、尾身大臣より、日韓協力して KEDO 合意をしっかりと進展させることが重要と指摘。

尾身大臣より本年 11 月に原子力委員会主催で開催予定のアジア原子力協力フォーラムに招請。キム長官は招請に謝意を表しつつ、是非参加したい旨応答。

② エルバラダイ IAEA 事務局長

(09 時 00 分～09 時 15 分：総会会場内事務局長室)

尾身大臣より、IAEA に対し我が国は、予算では約 20% 負担しているところ、職員数では約 2.6% に止まり著しいアンダー・レプリゼンテーションになっていることについて、若い人材を送るということで邦人職員の増加を図りたいと提案。

尾身大臣より、原子力について欧州は必ずしも活発ではないが、米国をはじめ世界的に進める動きもあるので、我が国とともに原子力の推進に努力していきたい、事務局長の活躍を期待する旨発言。

③ 仏国コロンバニ原子力庁長官

(09 時 25 分～10 時：総会会場内日本代表団会議室)

尾身大臣より、先々週の訪米時に米国に対し ITER への復帰を正式に働きかけたことを伝えた。

④ 米国エイブラハム・エネルギー省長官

(12 時 15 分～12 時 55 分：総会会場内米国代表団会議室)

冒頭、尾身大臣より、テロ事件について、米国、米国民、すべての犠牲者にお悔やみを申し上げるとともに、事件当時ボストンに滞在していたが、総理の指示により直ちにニューヨークへ向かい 14 日（金）まで滞在し、惨劇を目の当たりにした、本件は、一人米国国民のみならず、世界の平和と安全に対する脅威であり、我々は共にこれに戦っていかなければならない旨発言。エイブラハム長官より、心からのお言葉に感謝する、また日本からの支援と友情の念、協力の申し出に大変感謝し、日本の方も被害者や行方不明者がいると聞いており、お見舞い申し上げるとしつつ、市民社会が一丸となって戦わなくてはならない、積極的な考え方で国として乗り越えていかなければならないと応答。ITER への米国の復帰について、米国の参加を要請。

尾身大臣より、EU 即ち仏国がカダラッシュサイトを提案する動きであり、日本も 1、

2 か月で結論を出したいと紹介。